

稲山会

通信

第26号

2013年1月7日発行

発行人：斉藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

平成25年を迎えるにあたり——「親の責務」

稲門山の会にも会則がある。目的の一つに「我々は山の会の目標を見守り、相互の活発なる交流を図り、本会と共に山の会の限らない発展を願う」とある。この目的を果たすにも現役がいらないことには話にならない。

現役の減少は稲山会の衰退にもつながる。人数が多くて盛んであればよいということでもないが、一度でも途切れてしまうと、元に戻すには大変な労力とエネルギーが必要になってくる。だからこそ56年もの間、各時代の会員がそれなりの努力をして頑張ってきた。

早稲田大学における山の会の状況は、十指に余る山関係のサークルの中で、体育会の山岳部、ワンダーフォーゲル部を除けば、山に登る会は我が山の会とあと一つである。残りは山に登る会ではなく、山にも登る会である。会員数の多い会はこのような会で、山の会はあくまでも山に登る会である。

新人の勧誘は毎年4月の初めに行われ、この時が新勧の成果の収めどころであり、正にお祭り騒ぎである。新勧の4日間で、ここ数年間関わって学習してきたことは、以下のごとくである。当初は親の様なOBがあまり表に出ては？との思いもあり、濱田（山の会）会長研究室の学生に任せた。

○場所割での机出しをして、人が来るのを待つのみ、結果惨敗。

○翌年、待つのみでなく、外に出て個別に勧誘。20数名登録するが、入会零。

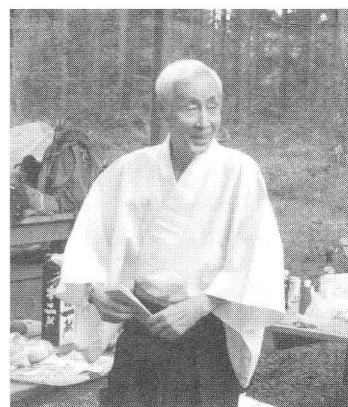
○翌年、他の山関係のブースに立ち寄った学生を中心に勧誘するが、結果零。

○翌年、前年の形にて、面接・面談をOBが行う。結果10数名が入会。

○その他新勧以外でも

①系列高校の文化祭に出向き、次期入学の学生を勧誘。

②現役のホームページを再度立ち上げ、関心のある学生を勧誘。



▲秋のキャンプにて上田代表



▲山の神への祈り

③山関係の他サークルに所属する、もう少し登りたい学生をピックアップし勧誘。

等々、色々動いてきて、我々も学習させられてきたが、親子ほど（否孫ほど）違う年配者でも出るときには出ていかねばと痛感する。

入会させただけでは直ちにやめてしまう。定着させるには、現役が自力行動出来るまでは、OBが面倒をみなければならない。部室での勉強会、山に入ってから歩き方から始まり、正に山の会登山教室である。現在1年生から5年生までの現役がなんとか在籍しているが、今年の新勧が正念場と心得る。楽しみでもある。

私が好む対戦型ゲームでは、端緒を開くのは親である。その親が逡巡していると、すかさず茶々が入る。「親がやらなきゃ、子が出来ない」。

2013年1月

稲門山の会代表 上田訓央

2013年度新年会・年次総会のご案内

役員会

早稲田大学山の会創立50周年を皆様と祝い、早いもので、今年で創立57年目に入っております。稲門山の会は大学時代に一緒に山に登った事のない人達も所属する、先輩・後輩のOBG集団ですが、本当は各学年代の先輩・後輩が絆の環で繋がっているはずですが、何処かでその絆の環が切れてしまいますと、先輩・後輩の繋がりが希薄になってしまいます。これが現在、山の会が直面している現状と悩みです。現在、企業等で頑張っているOBGも多数いますし、またすでにリタイアした人も多数います。

先輩・後輩という一般の「縛り」はありますが、社会人になれば、全て対等な仲間のはずです。

そこで今年はもう一度皆様と一緒に考えてみたいと思います。

- 何で新年会に足が向かないか・何で消極的なのかな？
- 学生時代に一緒に山に登っていないのだから、上級生・下級生の意識も希薄なはずですし、なかにはお互いに面識がないのが通常です。これが理由ですか？
- ただお互いに山登りが好きです・・・好きだったが基盤なのです。山の会は「がちがち」の体育会とは違うはずです。同好の人達が集う会です。
- 現在の企業勤務等で忙しい・時間が取れない。事情も各々でしょうが、一度卒業年次が近いOBGが、声を掛け合って下さい。期待しています。出来るでしょうか？

*いろいろとご事情とかご意見があるかと思いますが、是非ご参加下さい。

*新年会・年次総会

日時：2013年2月2日（土） 15：00～18：00

会場：大隈会館3階

会費：6,000円

2013年の「乗鞍高原スキー」のご案内

恒例の山とスキーの会の「乗鞍高原スキー」を以下の通り企画しております。

貸し切りバスで、車内で歓談しながら、にぎり湯の宿に泊っての楽しいスキー・ツアーです。宿はスキー場に歩いて3分の便利な場所です。

お誘い合わせのうえご参加ください。

日 程：2013年3月1日（金） 東京駅丸の内北口 19:00出発、当日夜 23:00頃温泉宿到着
3月3日（日） 13:00 温泉宿 出発、19:00頃東京駅着

宿泊旅館：みたけ荘 にぎり湯の宿

〒390-1513 長野県松本市安曇4291-1 乗鞍高原温泉 Tel 0263-93-2016

会 費：大人32,000円、子供（小学生以下） 24,000円

会費振込先：三井住友銀行 日比谷支店 普通預金口座 1750869

口座名義：山とスキーの会 市村栄一

申し込み＆連絡先：山とスキーの会 市村栄一、大国恒雄

〒105-0004東京都港区新橋5-7-2 Tel 03-3436-3237 Fax 03-3436-3238

e-mail e-ichimura@mbi.nifty.com

旅行傷害保険に加入しますので、参加の方は住所・氏名・生年月日・電話番号を申し込み時にご連絡下さい。

尚、今回は新たな企画として、(株)アウトドアサポートシステム (ODSS) の「スノーシューツアー」を取り入れました。乗鞍高原及び上高地へのツアーです。道具のレンタルあり、みたけ荘までの送迎もあります。

ご希望の方は、併せ、ご連絡下さい。

「不老山・春のハイキング」のご案内

今年は、神奈川県と静岡県の境く丹沢山地西部に位置する不老山を計画しました。頂上は北峰（928m）と南峰（926m）からなる双耳峰で、昨年登りました大野山（723m）の西隣り・丹沢山塊前衛に聳える山です。

新緑やヤマブキの咲く春がベストシーズンです。下山後は、山北駅近くの日帰り温泉（さくらの湯）への立ち寄りも予定しています。

是非皆様ご夫婦で、お孫さんも一緒に参加下さい。

1) 日 時：4月14日（日）9時集合

2) 集合場所：小田急新松田駅改札口

3) コース：山市場コース（歩4時間15分）

新松田駅（バス36分）～山市場（85分）～番ヶ平（60分）～頂上（45分）～番ヶ平（65分）～山市場

4) 昼 食：各自持参下さい

5) 幹 事：齋藤延雄（45卒） yuiyui@zg7.so-net.ne.jp 080-4005-3934

松村幹雄（48卒） mykof04@s5.dion.ne.jp 080-5175-9695

*ご面倒ですが、参加予定者の概数を把握したいので、参加しようかなとお考えの方は4/10迄に幹事宛にご連絡下さい。

山の会現役・OB合同山行 ハヶ岳

金子治雄 (S41年卒) 記

日時：9月1日(土)、2日(日)、3日(月)

メンバー：現役、角田(3年)、増田(3年)、時(4年)、OB、井村、新井、金子 計6人

計画日程：1日目 新宿→茅野→ピタラスロープウェイ→坪庭→縞枯山→茶臼山→麦草峠→白駒
池幕営地

2日目 白駒池→高見石→中山→黒百合平→天狗岳→根石岳→オーレン小屋幕営地

3日目 オーレン小屋幕営地→夏沢峠→硫黄岳→赤岳鉱泉→美濃戸→美濃戸口→茅野
→帰京

6月の高尾山に続いて現役新入会員の2回目の山行を行いました。今回は初めての幕営による山行で、事前に上田OB会代表と井村副代表が部室で登山教室を複数回開催し、直前にはテントなどの装備の確認や個人装備の確認、不足共同装備やアルファ米の購入を行い(食料は計画と買い付けは井村OBに行っていた)現役、OBも慌しい中、山行当日を迎えました。

天気予報は3日間晴れの猛烈な残暑予報が、前日になって急に雨模様の予報に変わってしまいました。山麓は曇りでしたが坪庭に上がるころから雨が降り出し、小雨でしたが終日雨で夜間は結構降りました。2日目は午後に本格的な雨の予想の下、小雨の中を様子を見ながら中山を超えましたが、その日の天狗越えを変更し黒百合平で幕営しました。翌日はようやく晴れて天狗岳、根石岳を越えオーレン小屋経由夏沢鉱泉から桜平に下山しました。

現役諸君たち、男子2名は山の会と同じく古い営スキークラブの3年生、女子は大学院進学が決まった台湾の留学生で、皆、他のサークルに所属しているためクラブ活動には慣れています。皆元気で、初めての幕営山行で、雨の中テントを張ったり撤収したり、雨の中食事を作ったりしました。皆、礼儀正しく、手際良く、知識欲に燃える気持ちの良い若者たちで、彼ら彼女たちと過ごした楽しい3日間でした。

学生たちがコースタイムを記録しました。

9月1日(土)：ロープウェイ駅12：15→縞枯山(13：18～13：48)→茶臼山(14：40～14：50)→
麦草峠(16：00～16：10) 青苔荘(16：50到着)

9月2日(日)：起床5：30(予定は6：00)

出発(8：00)→高見石小屋(9：00～9：30)→中山手前休憩(10：30～10：35)
→中山展望台(11：20)→中山峠(12：00)→黒百合平(12：08)

9月3日(月)：起床(5：00)

出発(7：00)→休憩(7：45～7：50)→天狗岳(8：25～8：40)→根石岳
(9：20)→根石山荘(9：30～9：35)→オーレン小屋(10：20～10：35)→夏沢
鉱泉(11：05～11：30)→桜平(11：45到着)



▲縞枯山にて全員集合



▲天狗岳山頂にて全員集合

投稿：キリマンジャロ登山

井上隆則（S54年卒）

2012年8月5日（1日目）

マチャメゲート（登山口事務所）は、扇沢のトロリー乗り場かと見まがうごとき混雑だ。これからキリマンジャロに登ろうという高揚感に溢れた登山者たちと仕事にありつけたポーターやガイドたちの喜びがともに交じり合い、ゲートを独特の空気が包み込んでいる。事務所に入国審査のごとく項目を書き込んだあとは、ポーターたちの荷分けと重量検査（ポーターの生命と健康を守るため一人20kg制限となっている）が済み次第、順次出発となる。

10時半、わが隊は出発だ。登山者は僕1名、ガイド、コック、接客係各1名、ポーター3名の総勢7名パーティだ。

“タカサー、ポレポレ＝たかさん、ゆっくりゆっくり。”この言葉を下山までに何百回と聴くことになる。大学で初めて山合宿に行ったとき、前を歩く先輩の足跡をなぞるように歩いた。今回はガイドのあとを付いて歩く。昔はファイトーだが、今回はポレポレだ。それでも10年ぶりの山はきつい。3033mのマチャメでキャンプ。

8月6日（2日目）

山はきつい。ガイドが高度に連れて変わりいく植生の話や、大きなしっぽを持つサルを見つけるとは指差してくれるが、ハイ、ハイと聞き流しながら心の中ではポレポレを繰り返し、リズムを作っている。

それでも、本日も午後はガイドに荷物を預け空身で歩くこととなった。わが荷物は雨具とフリス、カメラ、タオルに水、トレベ、あと飴ぐらいかな。全部で4kg位なもんだろう。“タカサー、ノープロBLEM。お客様、お客さま！”

ところが、キャンプサイトに着いたが、お客様テントが建っていない。お客様は到着するとすぐにテントに転びこみ、靴紐を解くまもなく熱いティーが出されるのだが、本日は僕のテントがない。昼頃より、みぞれ、あられが時折降りつける寒い天気だ。富士山の頂上と同じ高さだ。疲れた体でぼんやり岩に腰掛けていると、料理テントから“タカサー、ブリーズ”とお招きの声が掛かる。プロパンガスのごうごうと燃える熱でテントの中は熱帯夜のような。熱いコーヒーとビスケット。マンゴ、パパイヤ、オレンジ、ソーセージ。晩飯前のつまみ食いですっかり出来上がり、居眠りをしてしまった。3837mのシラでキャンプ。

8月7日（3日目）

本日は4600mの峠を越え、そして、4000mのキャンプ地へと向かう。これがこのマチャメルートの特徴だ。上り下りをしながら高度順化をしていくのだ。日本人の多くが山小屋完備に惹かれて、直登往復コースであるマラングルートを好むのだけど、やはり登頂率は低いようだ。

前日午睡のあと、ガイドに散歩に誘われ高低差200mほどを体験した。実は散歩ではなく仕組みられた高山病予防プログラムで、夜の熟睡と本日の4637mのラバタワー越えに効果てきめんなのだ。おかげで、体調よろしく、初めて最後まで自分の荷物を担ぐことができた。

ガイドは心憎いねえ。“タカサー、この調子で



▲3日目・4200mにて

いくと絶対登頂できるよ。僕が保証する”。
3976mのバランコでキャンプ。

8月8日（4日目）

今日はのっけからバランコウォールと呼ばれる垂壁を登る。このあたりからキリマンジャロは様相を変え、広大な裾野に広がる伸びやかな緑とはるかなる地平線から、太古の噴火で飛び砕けた頂上を取り囲む外輪山の岩山が屹立するようになる。この壁では追い越しが困難で、8時の出発では渋滞に巻き込まれるため、7時出発とした。1時間40分くらいただ登り続ける。

穂高のキレットくらいの難しさはあるだろうか。鎖はどこにもない。

そして、キリマンジャロ登山は欧米流で1時間に1本入れるという習慣はない。疲れるまで歩く。疲れきった頃にドームのような岩山に出る。ここでは、ドームの上で飛び上がりシャッターを切るとかなたの緑をバックに空中に浮いたような写真が撮れる。左手には岩肌に氷河が張り付きスカイラインへと続いていくのが望める。この岩と氷の壁の先に頂上はあるのだ。

ドームを下ったところは、氷河から流れ出る水が小川となり、高山植物がところどころに点する癒しを与えてくれる最後の場所だ。ポーターたちは、ここがカラングキャンプの水場となるためポリタンに水を汲んでいく。2個担ぐ者もいれば、空荷で戻りキャンプ地を往復する者もある。20kg制限は現場では通用しないのだ。ただし、わが隊はカラングキャンプを過ぎ、より上部のアタックキャンプに向かう。風は冷たく、ヤッケに目出帽、手袋を着ける。4673mの最終キャンプ地バラフ着。

8月9日（5日目）

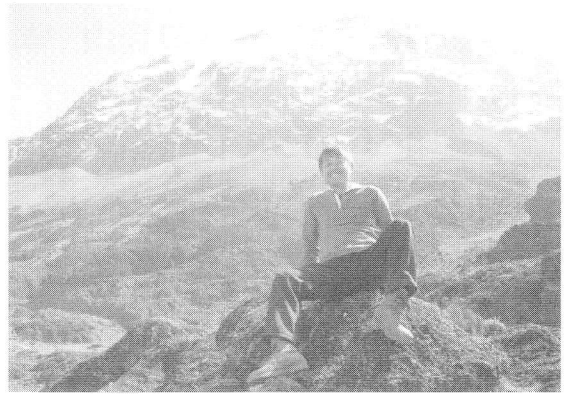
正確には8月8日23時起床、23時半頂上アタックにでる。9日のご来光を見るために深夜の出発となるのだが、夕方5時に寝ろといわれても眠れるものではない。しかし、できることは何でもしなければならない。アタックに備えてパッキングして、お茶をできる限り飲んで（高山では水を1日4リッター以上の飲まなければならない）、接客係のムディが23時には起こしてくれことを信じて眠る。

体調は良いか悪いかわからない。しかし、テントを出て振り向いたときには、富士登山のごとくライトの点滅が山肌を縫って動いているのが見え、冷氣の中に湧き上がる気持ちが高ぶり始める。ガイドは“タカサー、ポレボレ。必ず登れるからね。”魔法をかけられたようだ。

1時間ぐらいいはライトの中の石ころをただ見つめながら足を交互に運ぶだけ。あたりは多くの人間が歩いているのにザレ場を踏む靴音以外何も聞こえない。誰も無言なのだ。

徐々にからだが温まってくる。体調は悪くない。“昔は、道なき道を走っていたなあ”と、どうにも抑えがたき本能がささやく。“こんな山、ぞろぞろ歩いていても、おもしろくないぞ。こんなことしにキリマンジャロまで大枚はたいて来たんじゃ、あほらしい！”

そして、50人をごぼう抜き。5時23分、5895mのピークに1番登頂。20分くらいは頂上を独り占めした。



▲4日目・ドーム状台地にて



▲頂上にて



▲頂上直下でのご来光

右にケニヤ、左にタンザニアの街明かり。オーマイゴット！ キャンプに帰るとみんなが祝福を与えてくれる。“タカサー、イチバーン！オメデトー！” 仮眠の後、一挙に3068mまで高度を下げて、ムウェカキャンプにたどり着く。

8月10日（6日目）

最後の日。ゆっくりと8時起床、9時出発。でも7時頃には、あたりでマサイの歌と踊りがいくつも繰り上げられ、うるさくてゆっくり寝てられない。

しかし、“タカサー、出発だよー。” ガイドが声掛けると、僕のために6人のマサイが飛んで跳ねて、手を

たたいて腰をくねらせ踊り始める。ジャンボソングとキリマンジャロ数え歌が即興で変化しながら繰り上げられていく。いつしか僕もマサイの輪に飛び入り、歌い踊っていた。

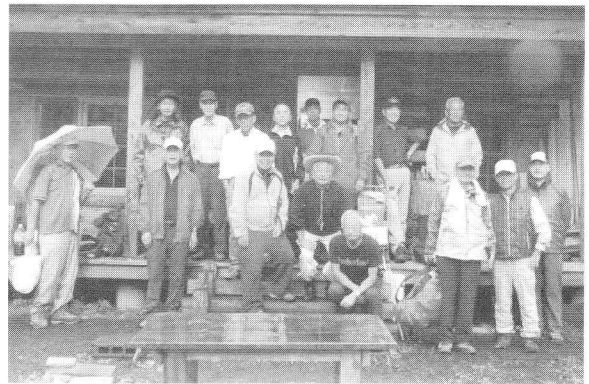
お昼には、ウエルカムゲートにて下山の届けを出して、登頂証明書をもらう。ちょっと遠慮して、5時30分登頂と申告した。23分ではせこいし、カッコ悪いでしょう。以上

2012年秋のイベントの報告

幹事 齋藤延雄（S45年卒）

松村幹雄（S48年卒）

昨年に引き続き、緑に囲まれ自然豊かな千露里庵で、都会の喧噪を忘れて楽しい一夜を過ごして参りました。9/22（土）の午後、17名のOBが千露里庵に集合し、BBQ・キャンプファイヤーを楽しみました。皆さん手馴れたもので、薪割り・飯炊き・食材の準備を手際よく済ませ、予定よりかなり早く準備が完了。16時には、恒例となりました上田代表の「山



▲秋のキャンプの朝・全員集合

の神への祝詞の奉納」から始まり、井村副代表の挨拶・吉田副代表の乾杯の音頭で懇親会がスタート致しました。BBQで程々にお腹を満たし、キャンプファイヤーではほろ酔いかげんも手伝い、学生時代を思いだし山の歌を歌いまくりました。

当日は、チロリアンクラブ会員の高木さん・水野さんも加わり、盛大な懇親会となりました。

翌日は、信濃川上駅（川上村は川上犬の原産地）を起点とする天狗山（1882m）グループと、日本200名山の一つに名を連ねる御座山（2112m）グループの2パーティーに分かれ登山を予定していましたが、夜半から降り続く雨で中止と致しました。

8時には全員で千露里庵の清掃を済ませ、現地解散。

日時：9月22日（土）～23日（日）

場所：八ヶ岳山麓の千露里庵（甲斐大泉）

参加者：上田代表（34年卒） 清水（36年卒） 吉田（38年卒） 井村・鈴木・笠原（40年卒）

齋藤・金子（41年卒） 松浦・高岡（42年卒） 佐久間（43年卒） 齋藤（45年卒）

新井・島田（46年卒） 豊田（47年卒） 中村・松村（48年卒）

以上17名の方々でした。

現役ハイキング同行記

新井昭夫 (S46年卒) 記

日時：11月18日 (日)

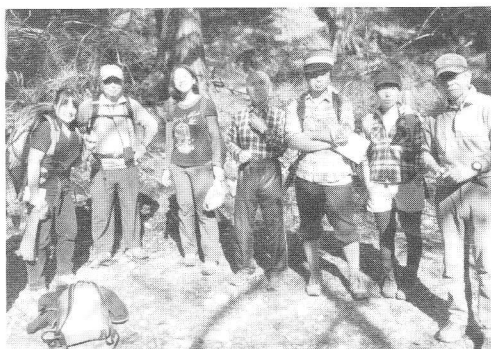
場所：丹沢鍋割山～塔ヶ岳

現役：角田・増田・時・中戸川 4名

OB：井村・金子・新井・豊田・山本夫妻 6名

現役の母親も参加して11名での団体行動。学生にトップ及びリーダーをやってもらい、パーティー行動の訓練にもなった。天候もまーまーで、大勢の登山客の中、秋のハイキングを楽しむことが出来た。渋沢駅の居酒屋で打上をして解散した。

8:30 渋沢駅集合 12:05 鍋割山 14:05 塔ヶ岳 16:45 大倉登山口 以上



▲現役ハイキングに同行：全員集合1



▲全員集合2



▲全員集合3

訃報：2012年11月7日に角田武夫さん (S.36年卒) が逝去されました。故人を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

明けましておめでとうございます。上田代表の新年あいさつ「親の責務」の最後の方に、「対戦型ゲーム」とありますが、学生時代に徹夜したOBの皆様にはすぐわかっても、OGの皆様には何のことかわからないと思いますので、内緒でお知らせしておきます。これは麻雀です。吉永小百合さん主演の映画「北のカナリア達」で、礼文島から見た冬の利尻山の映像が映し出されます。荘厳な美しさです。山の画像と言えば、昨年、栗又OBが「山岳画展」で、劔・槍・穂高を描いた油絵を展示されました。迫力ある山々が美しく描かれています。比較的若い井上OBが「キリマンジャロ登山」を投稿してくれました。なかなか楽しい文章です。今後も若いOBの投稿を期待しています。本年が皆様にとってよい年であることを願っております。 斉藤雄二 (S41年卒) 記



▲個展開催時の栗又OB